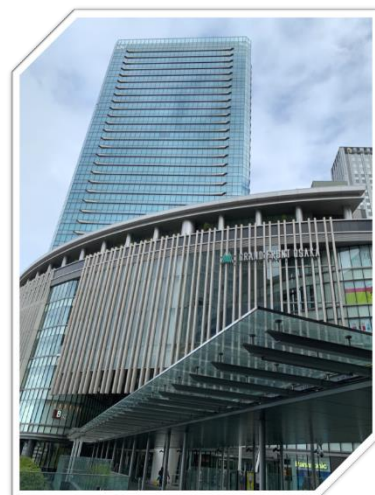


目的： **少子高齢化**を背景とした社会問題に焦点をあて、多様な世代が参加できるまちをどう作るか学び、企画を考え、実践します。それにより学生の課題解決力の向上を目指します。

取組： 子どもや高齢者の**居場所づくり**や料理交流企画、**オンデマンド型地域イベント**の企画を立案し、実施しています。



DaVinci Resolveで動画を作りYouTube経由でオンデマンド型の子どもの向け地域イベントを開催

梅田グランフロントで開催された**地域連携学生フォーラム**で前期の活動報告を行いました。報告内容は下記の動画から視聴ください。



【報告者】

那木悠哉 経済学部 4年
 松山優菜 経営学部 3年
 石橋清佳 経営学部 3年
 清水祐真 経営学部 2年
 荻野衣世 経営学部 2年



後期の活動内容の概要は下記の動画から視聴ください。

【報告者】

上原侖 経営学科 3年
 朝日輝美都 経済学科 3年
 西村明典 商学科 3年
 市川美波 経済学科 3年



地域でつながりをつくる必要性の社会的背景

- ① 未婚化（家族関係の縮小）
- ② 共働き世帯の増加
- ③ 児童虐待や子どもの貧困問題の顕在化
- ④ 日本の高齢者の社会的孤立の高さ
- ⑤ 日本の近隣関係の疎遠化
- ⑥ 自治会・町内会の支え手の高齢化
- ⑦ コロナ禍による孤立・閉じこもり・フレイルの増加
- ⑧ コロナ禍による子どもの地域行事の消滅

➤ 一人ひとりが社会のメンバーとして「居場所と出番」を持って社会に参加し、それぞれの持つ潜在的な能力をできる限り発揮できる環境整備が不可欠（社会保障審議会,2011,「社会的包摂を進めるための基本的考え方」）

大阪ガス様とコラボしたアトラクション型料理交流研修会の実施



ファミリーサポートセンターや枚岡西地域では子ども向けのクリスマス地域イベントを対面で企画し、開催しました



ベルデ石きり様や NALC 様、地域包括支援センターとコラボして、高齢者の集い場や Zoom でのオンライン上のコミュニティづくり、高齢者向けスマホ講座、介護予防プロジェクトを実施中です。

いきいきチェック結果表

項目	1回目 2021/10	2回目 2022/4	3回目 2022/10	4回目 2023/4
日常生活の動作	5 A			
運動系の機能	3 B			
栄養状態	2 A BMI 19.0			
口腔機能	3 A			
徘徊・こもり	1 B			
認知機能	3 A			
基本リスト総合得点 <small>※1はA以下でB以上は改善要のある項目</small>	17/20			
徘徊うつ気分	5 A			
人とのつながり	5 A			

A: 良好 B: 改善の必要あり C: 要注意

身体力測定の測定結果

腕振り足立ち	42.19	B		
TUG (Time Up and Go Test)	11.19			

※1: 5歳以下 ※2: A: 良好 ※3: B: 改善の必要あり ※4: C: 注意が必要 ※5: D: 転倒の危険あり ※6: 転倒の危険あり